

令和6年度 狭山市立山王小学校 自己評価書

1 本年度の重点目標

- (1)「自立する力」の育成 (2) 学力・体力の定着・向上
 (3) 豊かな心の育成・学年、学級経営、生徒指導の充実 (4) 特別支援教育の充実
 (5) トラブルを「学び」に変える (6) 強く・美しい学校 (7) 地域の中の学校 (8) 働き方を考える

2 本年度の経営方針

共育……「通って良かった、通わせて良かった、勤めて良かった。」といえる学校を築く。
 今日育…「今日やらなければならないことは、今日やる。」見通しをもって時間の有効活用を。

3 自己評価結果

【評価の目安】 A：よくできている (90%) B：概ねできている (85%以上) C：あまりできていない (70%以上) D：できていない (70%未満)

領域	番号	評価項目	評価	自己評価
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・学校だよりを多く発行してくれていて、学校の様子がよく伝わる。 ・運動会や音楽会等、子供のがんばりを伝えられるような取り組みが多い。
	2	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	・校内課題研究など行い、話し合いの場があるから話し合える環境があるので、助かる。 ・児童のために、教職員が尽力されていて、放課後に職員室で仕事することで、教職員間での情報共有やコミュニケーションを図る機会を作ることができている。
	3	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	・毎月の安全点検の集約、いつもありがたい。対応が早い。 ・様々な場面を想定し、児童が考えて行動できる訓練を行っている。
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	C	・前期に比べて隅々まで清掃する児童の姿が見られるようになった。 ・清掃主任に確認をして、清掃が分担されていない教室も子供たちと協力して清掃を行うことができた。 ・トイレははねた周りの掃除をどうするか、考える必要がある。時間いっぱい掃除をするクラスと早く帰るクラスがある。
確かな学力の育成	5	教師は、研修に主体的に取り組む、指導力の向上に努めている。	A	・若手の先生方も積極的にICTなど活用して教えてくれるので、勉強になります。電子黒板を積極的に授業で活用した。 ・様々な研修などを教師主体で行っているので、素晴らしい。 ・職員が積極的に研修に参加し、情報交換を行うなど、指導力向上を目指している。
	6	教師は、児童がわかりやすい授業を実施している。	A	・校内研修の授業実践を通して、見通しを持たせた学習過程、板書の工夫など、わかりやすい授業展開ができた。
	7	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A	・1学期に比べ、授業中落ち着いて学習に取り組む姿勢が身に付いてきた。高学年に向けての意識付けを学年末まで引き続き行う。 ・聞く時間と話す時間があいまいになってしまうこともあるが、だんだんと聞く姿勢をすばやく作れるようになってきた。 ・一斉授業に偏ることなく、児童の興味・関心を引き、児童自身が選択し探求していける授業作りを再度考える必要もある。
	8	児童は、基礎的基本的な学力を身につけている。	C	・学習が進むにつれて、習熟度の差が開いてきたように感じる。 ・意欲的に学習できる課題の設定や、家庭との連絡を綿密にしていきたい。 ・基礎基本の定着が出来ていない。特に算数の学力は個人差が大きい。行えるのであれば習熟度別や少人数指導を行って基礎基本の定着を図っていきたい。
	9	児童は、家庭学習の習慣を身につけている。	A	・宿題の提出はみんな毎日するようになったが、丸付けが雑だったり、e ライブラリーでの課題では、スピード勝負で取り組んでいたりする。 ・身につけている子は、低学年時代からの保護者の姿勢が反映していると感じる。

豊かな心の育成	10	児童は、進んであいさつをしている。	B	・他学年の子が挨拶してくれることが増えました。教室に入って元気よく挨拶してくれる児童や、階段ですれ違った時に挨拶をしてくれる児童が多いと感じるから。 ・低学年の児童のあいさつがよい。習慣化されている。
	11	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	B	・丁寧な言葉遣いで話すことが出来ない児童も見受けられるので、その都度指導している。 ・対教師には敬語を使える児童がほとんどだが、敬語を使えない児童が多いので、その都度指導している。
	12	児童は、時間や決まりを守って生活している。	A	・チャイムが鳴らなかった時期に時間を見る癖がつき、意識できる児童が増えた。 ・時間を見ながら行動する意識が高まり、始業 1 分前には声掛けをしている様子も見られる。しかし、移動教室などだと逆算ができず、ギリギリになっている時もある。
	13	教職員は、いじめの早期発見・早期対応に努めている。	A	・生活アンケートの実施や各学年の報告等で全体に周知されていると思う。 ・学年やブロック、管理職と連携を図って対応できている。
健康・体力	14	学校は、児童の体力を高めている。	A	・忍者修行（音読にんじゃカード）を全学年で取り組むことで、運動の習慣化を行うことができている。 ・朝マラソンは、低中高の児童の体力の実態に合わせ走る時間を変えて取り組めたのでよかった。
	15	児童は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	・外遊びや体育の授業を楽しみにしている児童が多い。 ・体を動かすことが好きな児童が多い。
	16	児童は、健康を意識した生活をしている。	A	・換気の大切さや、清潔なハンカチを持ち歩く大切さ、水分をよくとることを指導してきた。 ・給食の残食が多いことが課題でしたが、以前に比べて食べられる子が増えてきました。 ・休み時間のケガが減ってきた。 ・手洗いやマスクの着用など、意識的にかぜ予防を行うことができて児童が多くいる。 ・来室した際には、自分の体調を自己管理できるように声掛けを行っている。
家庭地域との連携	17	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・学校だよりを頻繁に配信してくださり、私自身他学年の活動を知ることができてとてもありがたいです。 ・スクリレの活用で保護者へ手紙が行き届くようになってきていると思うから。 ・手紙などもたくさん出し、頻繁に発信していると思う。 ・運動会や音楽会の保護者感想を学校だよりに載せるのはいいなと感じた。学校だよりを通して、子供たちの学校生活の様子を知ることができていると思う。
	18	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	・連絡帳、電話でこまめにやりとりはしている。 ・町探検のボランティアでは、たくさんの保護者の方や見守り隊の方にお世話になりました。 ・もっと学校応援団を活用したい。そのためには、学校からの呼びかけやコーディネーターさんの活性化を期待したい。
	19	学校は、幼保中と連携し、なめらかな接続に心がけている。	A	・小中連携に関しては、御狩場小も含め、教務主任同士で連絡を取り合いながら進められている。 ・6 年は、小中連携対応教諭が隔週で来てくれるので山王中との連絡ができるのはありがたい。 ・頻繁にはではないが、連絡を取っている様子があるので、よく連携していると感じる。

令和6年度 狭山市立山王小学校 学校関係者評価表

- ※ 【評価の目安】
A：よくできている。（90%以上）
B：概ねできている。（85%以上）
C：あまりできていない。（70%以上）
D：できていない。（70%未満）

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・学校だよりを多く発行してくれていて、学校の様子が伝わりやすいと思う。教務の先生方など、小さなことでも声をかけたり気づいたりしてくださり、とても助けられています。 ・校内課題研究など行い、話し合いの場があるから話し合える環境があるので、助かります。 ・放課後に職員室で仕事をすることで、教職員間での情報共有やコミュニケーションを図る機会を作ることができている。 ・毎月欠かさず、安全点検があるので、危機管理体制を整えていると感じます。 ・児童数の減少と共に掃除分担のない部屋ができてしまっている。5分清掃の時には適当にそうじをしている児童が多い。	・学校だよりをたくさん発行することは、保護者へ学校の様子を知らせることとなり、先生方の取り組みも保護者地域へ発信することで、とても良い取り組みです。
	2	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		・開かれた学校作りを目指して、教職員が一丸となって取り組んでいて、とても良い。
	3	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A		・清掃に関しては、無言清掃等、小中一貫の取り組みとして、足並みをそろえてやっていきたい。小学校では発達段階もあるので、できるところから実践していったほしい。
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	C		
確かな学力の育成	5	教師は、研修に主体的に取り組み、指導力の向上に努めている。	A	・若手の先生方も積極的にICTなど活用して教えてくれるので、勉強になります。 ・電子黒板を積極的に授業で活用した。もっと使いこなせるようになりたい。 ・職員が積極的に研修に参加し、情報交換を行うなど、指導力向上を目指している。 ・基礎基本の定着が出来ていない。特に算数の学力は厳しいものがある。行えるのであれば習熟度別や少人数指導を行って基礎基本の定着を図っていければと思う。	・ICTの活用について、先生方が自ら学習し、子供たちのために工夫を凝らしている様子がうかがえてとても良かった。 ・学力について課題がある児童に対しても1対1で丁寧に指導をしている様子が見られて良かった。 ・自分で考える力を育てることはとても大切。日頃から、養っていく必要がある。授業では自分で発表したり、考えたりする児童の姿が見られた。先生方の努力が伺える。
	6	教師は、児童がわかりやすい授業を実施している。	A		・学力に関して、家庭学習をどうしていくかが大切。保護者に理解を求めていくことも必要だろう。宿題のあり方について、保護者に話をする機会を作ることも必要です。
	7	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A		・個別最適学習について、個と集団を大切にしていきたい。そのためには、授業規律が大切。できない児童にはいろいろな工夫を凝らすしかないが、先生方がとてもよくやっていると思う。
	8	児童は、基礎的基本的な学力を身につけている。	C	・漢字や四則計算が定着していない児童が多々見られる文章を書く力がとても低い。文字の正しい筆順、ノートの書き方など、低学年からしっかり身につけさせたいものである。 ・個人差が大きい。算数でみると、高学年でも基本的な四則計算が身につけていない児童が結構いる。漢字、四則計算において、高学年でも苦手な児童がいる。	
	9	児童は、家庭学習の習慣を身につけている。	A		
豊かな心の育成	10	児童は、進んであいさつをしている。	B	・教室に入って来た友達が挨拶をしたら、「返ししよう」と繰り返し指導してきた。今では、明るい大きな声で挨拶する子がとても増えた。 ・廊下で挨拶をしても返ってくるのが半数ほど。挨拶を続けて返ってくるのを待つ。まずは、教師から声をかける、模範を見せる。 ・対教師には敬語を使える児童がほとんど。 ・生活アンケートの実施や各学年の報告等で全体に周知されていると思う。学年やブロック、管理職と連携を図って対応できている。	・不登校対応として、相談室の利用ができているのはとても良いです。相談しやすい環境作りがなされていることと思います。 ・いじめ、不登校の低年齢化が言われている中で、対応がとても難しくなっている。そんな中、先生方の連携がとれているので、とても良いです。
	11	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	C		・あいさつはとても大切です。継続して指導をしてほしい。言葉遣いについて、先生の方も子供との距離を適切に保つことを意識しないと行けない。なれ合いは禁物。子供と先生がフレンドリーにすることもほどほどにすべき。
	12	児童は、時間や決まりを守って生活している。	A		・SNSの使い方も課題です。写真を勝手に投稿したり著作権や肖像権を侵害したら犯罪だと指導する必要があります。
	13	教職員は、いじめの早期発見・早期対応に努めている。	A	・学年間はもとより、多くの先生方・相談員さんとの日頃の情報交換により、早期対応することができ、ありがたいと思う。	
健康・体力	14	学校は、児童の体力を高めている。	A	・朝マラソンは、低中高の児童の体力の実態に合わせて走る時間を変えて取り組めたのでよかった。 ・進んで業間休みに遊びに行く児童が多い。 ・給食の残食が多いことが課題でしたが、以前に比べて食べられる子が増えてきた。 ・手洗いやマスクの着用など、意識的にかざり予防を行うことができている児童が多くいる。	・体力については、狭山市全体の課題としてとらえていく必要があります。運動に関しては、夏は暑くて体育が制限されたり、中学の部活も制限されている中、日々の活動をいかに工夫して体力をつけていかを考えていかなければいけない。 ・健康に関して、コロナ禍で歯磨き指導がなくなり、そのままになっている。工夫をして取り組めるといいです。
	15	児童は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A		
	16	児童は、健康を意識した生活をしている。	A		
家庭地域との連携	17	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・日々の活動の様子を配信していただきありがとうございます。校長先生のこまめな学校だよりは、保護者にとってありがたいことであり、私たち教員自身の励みにもなっていると思う。	・様々な機関と連携し、いろんなところで子供たちを見られるのはとても良いです。 ・働き方改革との兼ね合いを見ながら進めていくことも大切です。
	18	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	・図書館や他機関の出前授業などを通して、児童に様々な方法で教育することを継続したいものである。	・小中の交流が今後活発になると良いです。音楽会や体育祭など、距離が近いので、交流を深めていきたいと思います。
	19	学校は、幼保中と連携し、なめらかな継続に心がけている。	A		